

京都

KYOTO

不思議ふしぎ?!

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所

コシヒカリのルーツは京都!?

11月23日は勤労感謝の日。

諸々の勤労に感謝し、祝日として休養する日と思われていますが、それは戦後に後付けられた名目です。この日は古来「新嘗祭」という五穀、特に米の収穫にまつわる祭事が宮中をはじめ各神社で行われる日なのです。この日まで新米を口にしない伝統も残っていて、米が神と、かつて神と同義であった天皇と国民をつなぐ食の要であることを確認する日なのです。



新嘗祭に奉納される抜き穂(西院春日神社)

近年は優れた品種が開発

され、美味しい日本米が各地で脚光を浴びています。が、長く米の王者とされた銘柄「コシヒカリ」、なかでも最高と称えられた「魚沼産コシヒカリ」のルーツは京都にあったことを存じますか？

明治41年、物集女の篤農家山本新次郎氏は、当時の「日の出」米から偶然に特異な品種を発見し、苦労の末固定化に成功しました。この米は日の出から輝く「朝日」、



京都旭米

さらに「旭」と名付けられ、

瞬く間に近畿一円に広がり、ました。現在、物集女街道沿いに建つ旭米顕彰碑はその証しです。

この旭米が魚沼産コシヒカリを産むに至るドラマには、「コシヒカリの父」と称えられる京都帝大卒で、当時新潟農業試験場長だった杉谷文之氏を巡る奇跡としかいいようのない秘話があり、それはまさに感動の物語なのですが、紙面の都合で割愛せざるを



街道沿いに建つ山本新次郎氏の旭米顕彰碑
正面には水田が広がる

得ないのが残念ではありません。

ともあれ、日本の誇りともいえる米のルーツが京都にあり、それを可能にしたのがまた京都ゆかりの人々の英知と執念であったことを忘れてはいけません。現在も幻の京都旭米を土から復活させ生育させている人が園部におられます。信念に裏付けられた人の想いは必ず受け継がれ、大いなる連環を結び、明日の日本を作っているのです。

(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)



コシヒカリの父・杉谷文之氏銅像(富山県上市町)